

号外

琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

2015年(平成27年)

6月23日(火)

発行所 琉球新報社
郵便番号 〒900-8525
那覇市天久905番地
©琉球新報社2015年

平和の誓い、新た

戦後70年「慰霊の日」



正午の時報に合わせて1分間の黙とうをする沖縄全戦没者追悼式の参加者ら＝23日、糸満市摩文仁の平和祈念公園

沖縄は23日、沖縄戦から70年となる節目の年の「慰霊の日」を迎え、最後の激戦地となった糸満市摩文仁の平和祈念公園で戦没者20万人余りを追悼する「沖縄全戦没者追悼式」(県、県議会主催)が執り行われた。公園には早朝から多くの遺族が訪れ、南洋群島での犠牲者らも含めた戦没者24万1336人分の名前が刻まれた「平和の礎」に花や水、線香を手向けた。

追悼式で翁長雄志知事は昨年12月の就任後初めてとなる平和宣言を読み上げ、20万人余りの尊い命が犠牲になった沖縄戦の体験を踏まえ「アジア・太平洋地域の発展と平和実現に努力し、誇りある豊かな沖縄を目指す」との決意を表明した。

平和宣言で翁長知事は、戦後に土地を強制収用されて建設された米軍基地の問題について、現在でも国内の米軍専用施設の73・8%が集中している現状を挙げ「日本全体の安全保障問題として国民全体で負担するべきだ」と訴えた。

焦点の普天飛行場の名護市辺野古への移設問題については、昨年の選挙で反対の民意が示されたことや、同飛行場が戦後の米国統治下で強制的に接収された経緯に触れ「移設に向けた作業を強行する政府の姿勢を県民は許容できない」と批判。政府に「固定観念に縛られずに新基地建設の中止を決断するべきだ」と訴え、基地負担の軽減を強く求めた。

追悼式には安倍晋三首相や関係関係のほか、大島理森衆院議長、山崎正昭参院議長らが参列した。昨年に続いてケネディ駐日米大使も出席した。

平和宣言

翁長知事

70年目の6月23日を迎え、私たちの郷土沖縄では、かつて、史上稀に見る熾烈な地上戦が行われました。20万人の尊い命が犠牲となり、家族や友人など愛する人々を失った悲しみを、私たちは永遠に忘れることができません。

それは、私たち沖縄県民が、その目や耳、肌で戦いの惨状を鮮明に記憶しているからであり、戦争の犠牲になられた方々の安らみであることを心から願ひ、恒久平和を切望しているからです。戦後、私たちはこの思いを

の考えは、到底県民には許容できるものではありません。国民の自由、平等、人権、主義が等しく保障されず、平和の礎を築くことはできないのです。

政府においては、固定観念に縛られず、普天間基地を野古へ移設する作業の中止を、決断する政策を再度見直され、時を超えて、いつまでも子ども達の笑顔が絶えない豊かな沖縄を目指します。



「平和の礎」に刻まれた家族の名前を見詰める女性＝23日午前7時35分、糸満市摩文仁の平和祈念公園

鎮魂の祈り 深く



戦没者に手を合わせ、冥福を祈る人々＝23日午前7時20分、糸満市の魂魂の塔

戦後70年 慰霊の日

戦後70年。国会で安全保障関連法案が審議される中で迎えた「慰霊の日」の23日、平和の礎や慰霊塔が立ち並ぶ糸満市摩文仁は、早朝から非戦の祈りに包まれた。

「二度と戦さず」

魂魂の塔は1946年に建立された戦後初の慰霊塔だ。米軍の指示でこの地に

世代超え非戦の歩み

平和行進 県立高校の生徒ら約160人が23日午前9時前、糸満市立糸満南小学校から非



非戦の誓いを胸に平和祈念公園に向け行進する県立高校の生徒ら＝23日午前、糸満市

糸満南小学校から平和祈念公園までの道のりは約9き。生徒らは行進をしなが

親族の名に手合わせ

平和の礎

糸満盛吉さんの名前をじっと見詰める手を合わせた。「もう二度と戦争はしてはいけ



中国に出征した父糸満盛吉さんを見送り、生き別れになった糸満トミさん(左)＝23日午前8時過ぎ、糸満市摩文仁の平和祈念公園

から戦没者を追悼するため遺族らが糸満市摩文仁の平和祈念公園内にある平和の礎を訪れた。国頭村出身の糸満トミさん(88)＝浦添市

に乗り込む前、盛吉さんとはトミさんの顔をじっと見詰

沖繩戦当時、トミさんは12歳。女学校に入学したが

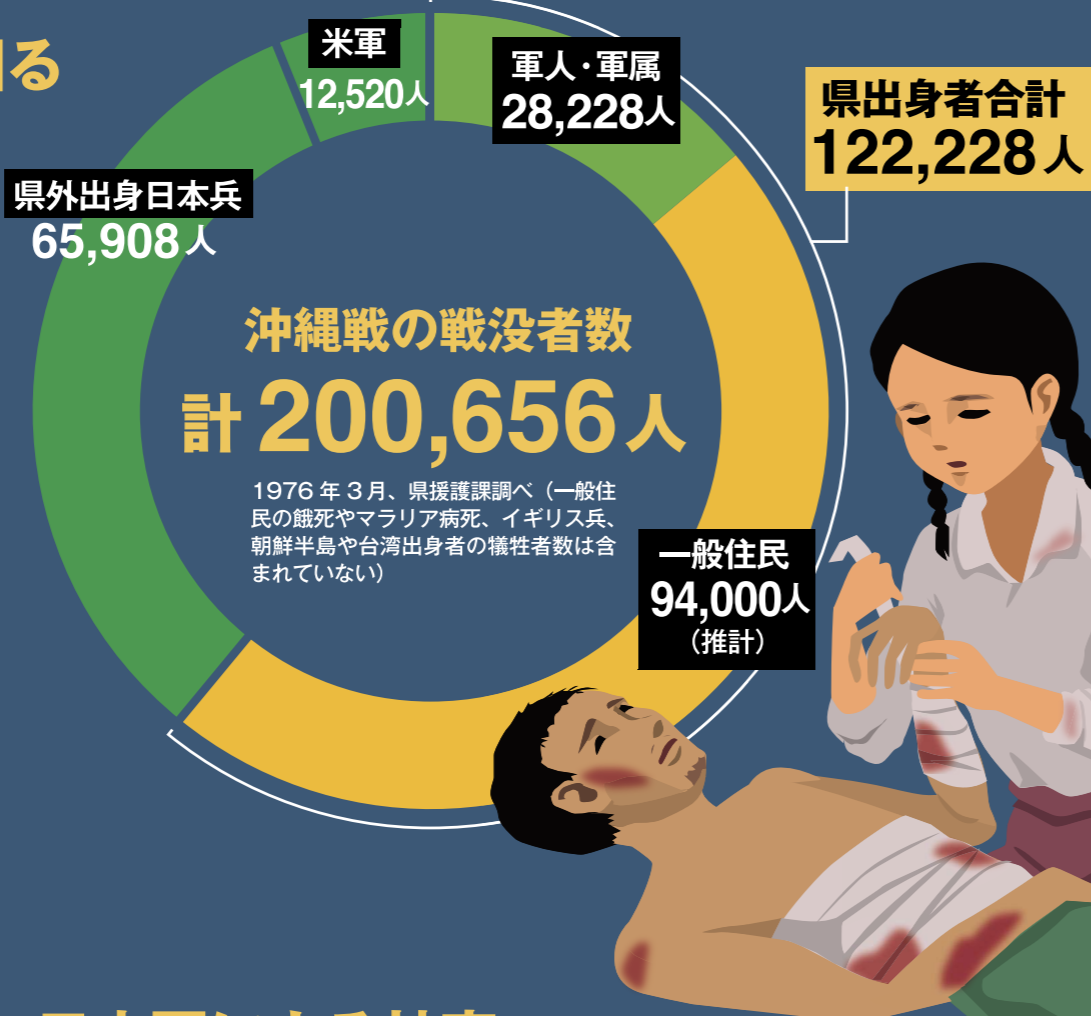
が近くで常に聞こえた。動けなかった。しばらく身を隠していたが、空腹をしの

沖繩戦は1931年の満州事変から始まり、日中戦争、アジア・太平洋戦争へと続いた「十五年戦争」の末期に起きた日米最大の戦闘です。戦争の歴史の中でも、沖繩戦が特に悲惨だと言われるのは、住民を巻き込んだ日本国内で唯一の地上戦が行われたからです。県民の4人に1人が犠牲となりました。

沖繩戦って、どんな戦争だったの？

正規軍人を上回る 住民死亡

米英軍による無差別攻撃で、正規軍人を上回る多くの一般住民が亡くなりました。県援護課の資料によると、沖繩の戦没者数は20万656人。そのうち、一般住民の犠牲は約9万4千人です。県出身の軍人・軍属を合わせると、沖繩の人の犠牲は12万2千人を超えます。



① 日本軍の夜間爆撃に対し、米軍が対空砲火で交戦
② 1945年(米公文書館提供)
③ 現在の読谷村付近の海岸に停泊する米軍艦船④ 1945年(米陸軍ホームページより)

本土防衛の「捨て石作戦」

米軍はサイパンでの戦いに勝つと、日本本土への進攻拠点とするために沖繩を奪おうとします。圧倒的な兵力を誇る米軍を前に、戦力の劣る日本軍は、沖繩戦を勝ち目のない「捨て石」(大きな目的を達成するために見捨ててしまう犠牲)作戦とし、天皇制や本土を守るための時間稼ぎにしました。



戦場に住民が動員



沖繩で捕虜になった最年長と最年少者の日本兵 左から75歳16歳15歳 11月6日(真平平和祈念資料館提供)

日本軍は沖繩県内で足りない兵力や食料を調達しようと、主に17~45歳以上の男性を「防衛隊」、14~19歳までの生徒を「学徒隊」として戦闘に参加させました。残った老人や女性、子どもらにも飛行場や陣地造り、食料の調達を担わせました。沖繩が戦場になることが予想されていたのに、住民のための十分な避難計画を立てておらず、多くの県民が戦争に巻き込まれました。

学徒隊動員数と戦死者数

| | | | |
|-----------------------|--------------------|-------------|------------------|
| 男子学徒隊 1464人 (教師46人含む) | | 女子学徒隊 約505人 | |
| 生存者 648人 | 戦死者 816人 (うち教師24人) | 生存者 303人 | 戦死者 202人 (教師13人) |

出典：「沖繩戦の全学徒隊」(ひめゆり平和祈念資料館)

強制集団死の主な犠牲者数

- 渡嘉敷島 330人
- 座間味島 135人
- 慶留間島 数十人
- 屋嘉比島 約10人
- 伊江村 200人以上
- 読谷村 116人
- 具志川 13人
- 沖繩市美里 十数人
- 南部 数百人

座間味は宮城晴美さん調査。その他は各市町村史などに基づく

日本軍による被害、「集団自決」(強制集団死)など

一般住民の中には、避難していたガマ(洞窟)から戦闘の邪魔になるとして日本軍に追い出されて死亡したり、米軍の協力者(スパイ)として疑われたり、投降しようとしたりして日本兵に殺害される者もいました。「米英軍は情け容赦なく鬼や獣のようである」と教え込まれていた住民は、敵が上陸するとパニックに陥りました。日本軍の命令や誘導で、死ぬよりほかに方法がない状態に追い込まれ、「集団自決」(強制集団死)で亡くなる人々もいました。宮古・八重山諸島などでも空襲や艦砲射撃で大きな被害があり、八重山では日本軍の指示、命令で避難した住民が避難先でマラリアにかかり、大勢が亡くなりました。



2015年5月19日発行 りゅうPON! 平和学習特別号「つなぐバトン」より抜粋

平和の詩

「みるく世がやゆら」

与勝高校3年 知念 捷

みるく世がやゆら
平和を願った 古の琉球人が詠んだ琉歌が 私へ訴える
「戦世や済ま みるく世ややがて 嘆くよ臣下 命と宝」
七〇年前のあの日と同じように
今年もまたせみの鳴き声が梅雨の終りを告げる
七〇年目の慰霊の日
大地の恵みを受け 大きく育ったクワディーサーの木々の間を
夏至南風の 湿った潮風が吹き抜ける
せみの声は微かに 風の中へと消えてゆく
クワディーサーの木々に触れ せみの声に耳を澄ます
みるく世がやゆら
「今は平和でしょうか」と 私は風に問う

花を愛し 踊りを愛し 私を孫のように愛してくれた 祖父の姉
戦後七〇年 再婚をせず戦争未亡人として生き抜いた 祖父の姉
九十才を超え 彼女の体は折れ曲がり ベッドへと横臥する
一九四五年 沖繩戦 彼女は愛する夫を失った
一人 妻と乳飲み子を残り 二十二才の若い死
南部の戦跡へと 礎へと
夫の足跡を 夫のぬくもりを 求め探しまわった
彼女のもとには 戦死を報せる紙一枚
亀甲墓に納められた骨壺には 彼女が拾った小さな石

戦後七〇年を前にして 彼女は認知症を患った
愛する夫のことを 若い夫婦の幸せを奪った あの戦争を
すべての記憶が 漆黒の闇へと消えゆくのを前にして 彼女は歌う
愛する夫と戦争の記憶を呼び止めるかのように
あなたが笑ってお戻りになられることをお待ちしていますと
軍人節の歌に込め 何十回 何百回と
次第に途切れ途切れになる 彼女の歌声
無慈悲にも自然の摂理は 彼女の記憶を風の中へと消してゆく
七〇年の時を経て 彼女の哀しみが 刻まれた頬を涙が流れた
蒼天に飛び立つ鳩を 平和の象徴というのなら
彼女が戦争の惨めさと 戦争の風化の現状を 私へ物語る

みるく世がやゆら
彼女の夫の名が 二十四万もの犠牲者の名が
刻まれた礎に 私は問う
みるく世がやゆら
頭上を飛び交う戦闘機 クワディーサーの葉のたゆたい
六月二十三日の世界に 私は問う
みるく世がやゆら
戦争の恐ろしさを知らぬ私に 私は問う
気が重い 一層 戦争のことは風に流してしまいたい
しかし忘れてはならぬ 彼女の記憶を 戦争の惨めさを
伝えねばならぬ 彼女の哀しさを 平和の尊さを

みるく世がやゆら
せみや 大きく鳴け 思うがままに
クワディーサーよ 大きく育て 燦爛と注ぐ光を浴びて
古のあの琉歌よ 時を超え今 世界中を駆け巡れ
今が平和で これからも平和であり続けるために
みるく世がやゆら
潮風に吹かれ 私は彼女の記憶を心に留める
みるく世の素晴らしさを 未来へと繋ぐ